相生市立図書館

図書館ゆうびん YA向け

2023年　秋号

〒678-0053　兵庫県相生市那波南本町11番１号
TEL　0791-23-5151

読書にうってつけの季節がやってきました！中央公園の美しい紅葉を見渡せる学習室での勉強もおすすめです。この「図書館ゆうびん　YA 向け」では中高生のみなさまへのおすすめ本や図書館の便利な使い方などを発信しています。

一年で最も熱い二週間　読書週間　の幕開けです！

10 月 27 日（金）～11 月９日（木）は読書週間です。今年のキャッチコピーは「**私のペースでしおりは進む**」。自分のペースで自分の読書を楽しもう！
相生市立図書館ではこの期間様々なイベントを開催します。図書館ホームページやインスタグラムでイベントについての告知を行いますので、ぜひご覧ください。

☜ホームページはこちら
インスタグラムはこちら☞

おすすめ絵本作家

junaida（ジュナイダ）さん

『の』　junaida//作　福音館書店　P-ジ

「わたしの」　「お気に入りのコートの」　「ポケットの中のお城の」　「いちばん上のながめのよい部屋の」…。いつもこっそり言葉と言葉のすきまにいる「の」。不思議な「の」に導（みちび）かれた、時間と空間をこえた旅を描（えが）きます。

繊細（せんさい）で緻密（ちみつ）、でもポップで楽しい junaida さんの絵本の数々。中高生にもおすすめの作家さんです。YA コーナーにありますので手に取ってみてください。

Interview with a teacher！

今回インタビューにお答えしてもらったのは、双葉中学校の本谷先生です。
担当教科は社会科、バスケットボール部の顧問をされています。

Ｑ１　どんな中学生・高校生でしたか？

Ａ１　どちらかと言えば目立たないタイプだったと思います。みんなの前ではネコを被っているような。高校では科学部と文芸同好会に入っていました。文化部発表会で、創作した詩を発表したことが印象に残っています。ペンネームを使っていましたが、当時は原稿が手書きだったので、文字で友だちに私だと気づかれて、恥ずかしかったです。

Ｑ２　当時好きだった本やマンガはありますか？

Ａ２　小学生の頃おばに**百人一首**を教えてもらい、好きになりました。高校の先生には**田辺聖子**さんの本をすすめてもらいました。今思えば身近な本好きの人たちから影響を受けたと思います。中でも一番ハマったのは『**王家の紋章**』（細川智恵子//作　1976 年から現在も連載中。古代エジプトを舞台にした漫画）です。大好き過ぎて実際にエジプトに行きました。本の世界で他の国の文化や歴史を知ることが好きです。

Ｑ３　高校卒業後の進路について

Ａ３　歴史を学ぶため、大学では史学を専攻しました。異国の暮らしや古代文明について考えているだけでワクワクし、自分の目で見たいと思い、船で１ヶ月かけて外国をめぐるセミナーにも参加しました。大学生の時は発掘調査や博物館での仕事にも憧れがありましたが、教育実習で生徒たちとふれあったことで、教師の道を選びました。

Ｑ４　最近のおすすめ本を教えてください！

Ａ４　時代小説なら高田郁さんの『**あきない世傳金と銀**』。呉服屋に奉公に出た少女が商売の才能に目覚め成長していく話です。ファンタジーなら『**獣の奏者**』、『**精霊の守り人**』シリーズの上橋菜穂子さん。「守り人」シリーズは NHK でアニメ化、ドラマ化もされました。『**大地の子エイラ**』シリーズのジーン・アウルさんの作品もおすすめです。こちらはクロマニヨン人やネアンデルタール人が登場する人類の黎明を描いた超大作です！漫画は最近のものなら森薫さんの『**乙嫁語り**』を読んでいます。それから…。

私物を見せていただきました！

本好き同士の話題は尽きず…。たのしいお話をありがとうございました！
図書館では2階の出張 YA コーナーに本谷先生のおすすめの本を展示しています。

続きが気になって止まらない！
よふかし注意のイッキ読み本特集

『ルームメイトと謎解きを』　楠谷 佑//著 ポプラ社　F-ク

男子高校、霧森学院の旧寮「あすなろ館」。昨年起きたある事件のせいでほとんどの生徒が新しくできた寮に引っ越してしまい、今は６人しか住んでいない。そんなあすなろ館に、絵愛が入寮してきた。柔道部２年生の雛太と同室になったが、彼はペットのハリネズミにしか心を開かない、謎の多い人物だった。

ある日、校内で生徒会長の湖城が何者かに殺害された。現場の状況から、犯行が可能なのはあすなろ館の住人だけである。さらに絵愛は湖城に目を付けられていたため、犯人と疑われてしまう。

優れた洞察力を持つ絵愛と友情に熱い雛太のコンビが推理に挑む、青春ミステリー。

『顔のない花嫁』K.R.アレグザンダー//作　金原 瑞人　小松 かほ//訳　小学館　93-ア

ケヴィンが住む町では毎年ハロウィンに手づくりお化け屋敷コンテストが開催される。お化け屋敷クリエーターかホラー映画の監督になりたいケヴィンは、ジュリアとタニーシャとチームを組んでコンテストに出場している。優勝をねらい意気込んで準備をしている最中、ケヴィンは洋館の地下室でウェディングドレスを着た古いマネキンを壊してしまう。その日から彼らの周りでは不可解なことが起こり始める。３人はマネキンに隠された事件を知り、本物の恐怖を味わうことに…。

『博物館の少女』富安陽子//著　偕成社　91-ト

明治 16 年、文明開化真っ盛りの東京にやってきた大阪の古物商の娘・イカル。上野の博物館を訪れた際、館長に目利きの才能を認められ、博物館で「怪異」の研究をしている織田の助手として働くことになる。

織田と博物館の収蔵品の整理をしていたイカルだったが、黒手匣(くろてばこ)という品物が何者かによって持ち去られたことが発覚した。一体だれが、何のために盗んだのだろう？ いわくつきの品とうわさされる、匣に隠された秘密とは…？

両親と死別し、見知らぬ土地で生きる少女…とイカルの不幸から始まるが、人との出会いや彼女自身の知識と才能で、人生を切り開いていく様子が清々しい物語。

『ロンドン・アイの謎』シヴォーン・ダウド//著　越前 敏弥//訳　東京創元社　933-ダ

12 歳のテッドは両親と姉の 4 人家族。ある日おばのグロリアといとこのサリムがテッドたちの元を訪れる。子どもたちは観光し、サリムは町のシンボル、大観覧車「ロンドン・アイ」に乗ることに。姉弟はサリムの乗ったカプセルを見守っていたが、30 分後地上に到着した時、乗客の中に彼の姿はなかった。上空の密室から、サリムはどこに消えたのだろう。人の気持ちを理解するのは苦手だが、抜群の記憶力と数学や気象学の知識を持つ少年テッドが事件の解決に挑む。読み応えのある長編ミステリ。

続編の『**グッゲンハイムの謎**』では、テッドが訪れたニューヨークの美術館で名画の盗難事件が発生。美術館で働くグロリアが容疑者にされてしまう。大切なおばの無実を証明するため、テッドは奔走する。

『彼の名はウォルター』エミリー・ロッダ//著　さくま ゆみこ//訳　あすなろ書房　93-ロ

転校早々遠足があり、クラスになじめていないコリンはゆううつだった。しかも乗っていたバスが故障し、彼をふくむ 4 人の生徒とフィオーリ先生は電波もとどかない田舎の空き家で迎えを待つことになってしまう。退屈しのぎに、とコリンが見つけた手書きの本をみんなで読み始める。魔女や話す動物が登場するおとぎ話のようだが、読み進めるうち、それがただの物語ではないことに気づき…。コリンたちの現実世界と本の中の世界が交互に描かれる、謎解きサスペンス。

『ウクライナから来た少女ズラータ、16 歳の日記』ズラータ・イヴァシコワ//文・絵　世界文化社　916-イ

2022 年 2 月。ウクライナで暮らす 16 歳のズラータは、先生から「明日から戦争になります」と告げられる。母はすぐさま娘を日本に避難させることを決めた。ズラータは幼少から日本への憧れが強く、アニメから日本語を習得していた。「あなたはこれから一人で生きていくの」母の言葉からわずか 2 ヶ月後、少女は全財産16 万円とスケッチブックを手に祖国を離れた。戦火とコロナの渦巻く中、彼女は勉強とスケッチを続け、日本で漫画家になるという夢を決してあきらめなかった。ズラータさんの言葉と言葉にならないスケッチから、あなたは何を感じ取るでしょうか。